慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	編集後記 奥付
Sub Title	
Author	飯田, 鼎
Publisher	慶應義塾経済学会
Publication year	1952
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.45, No.1 (1952. 1)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19520101-0073

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

響を受ける。大體に於て死亡率と收穫とは平行している。死亡率の最大の變動中の或ものは戰爭に關聯しているが、これには戰爭と關聯して他の原因即ち飢餓と疫病が作用して居り、然も此等は必ずしも戰爭から生じたものではない。一七二〇―一八一五年の九十五年間に死亡超過の年は十一であつて、この間に總人口は七〇％增加した。かくて瑞典では產業革命以前に於ける生產上の進步は、生活水準の向上でなく人口增大なる形で現はれた。生活水準は絕間なき戰爭の時代であつた。十七世紀に比すれば或種の改良が行われたが、平和な十六世紀に比すれば低い。かくて重大な食糧缺乏の度に死亡率が增大するので、最下層は不作年に飢餓線に非常に接近するという結論を得る。從つて死亡率は原則的に最貧層の諸條件に依ると考えられる。かゝる產業革命以前の社會の特徵は、多くの點で明らかにされる。例えば幼兒死亡率や疫病に就て見ても、食料供給が死亡率變動に對する決定的要因たる事を示している。通常產業革命の結果たる新體制を不穩と不安定なものを見るが、寧ろ革命以前の社會の生活が不安定且不規則で自然の氣紛れの無力な犧牲となつた。產業革命以前の社會に於ては出生率死亡率共にそれ以後に比して極めて高く、年齡別分布も非常に異つている。舊體制の人口學的特徵は平均壽命の短かい事であり、また生產年齡の小なる事は生產水準の低さを助長した。

斯の如き瑞典の狀態が當時の一般的狀態を示すが、若しくは北歐に特徵的なものかという點に就ては、餘り明白でない。併しスカンディナヴィア諸國の死亡率は多くの大陸諸國より低く、スカンディナヴィア諸國の間では、丁抹、諾威、瑞典の順で死亡率が減少し、芬蘭はその大なる出生率に比し最低の死亡率を示している。これは各國の都市化の性格の相違に基く。大陸に於てはスカンディナヴィアより都市が非常に發達して居り、又スカンディナヴィア諸國に於ても都市人口の割合は丁抹、瑞典、諾威、芬蘭に低くなり、死亡率の水準に對應する。かゝる相違は都市の不健康さに基くもので、各國の農村に於ける死亡率に大なる相違はない。都市の不健康さは大部分のみに限らず、最小の都邑と雖も同樣であつて、一八一六―四〇年に於て四四八の人口を持つに過ぎぬ都邑の死亡率がストックホルムと同じであつた。かくて最小の都邑でさえ、產業革命以前の持ち得ぬ問題を示している。

農業社會とは異つた型に屬する要素は、其後の發展を支配すべきものであるが、產業革命以前には其が無視し得べき程の規模で現われた場合に於てさえ、統御出來ぬ事を示している。產業革命によつて新しい弊害が造出されたのでなく、反對に諸國に於て永い間進行していた弊害が、近代社會の樣相を變化せしむべき新勢力の影響の下に前例のない大いさに迄成長したのである。以上の如き論述には新しいものは何もない。それはクラッパムやアシュトンの主張と一致するものである。（新保　博）

編集後記

一九五一年も愃忙の中にすぎ、われわれは二十世紀後半の二年目を迎えた。すべての人々が重大な關心をよせていた對日講和條約は、アジヤ諸國の不安にもかかわらず、大衆の全面講和への熱望を一片の空想としてほおむり、强引に締結された。しかも、〝原爆の子〟らの悲痛な訴えといきどおりをよそに、〝自衞のための再軍備〟はまことしやかにとなえられ、またジャーナリズムはこれに乘じて世論を統一の方向にみちびこうとして必死である。

殊にわれわれ若い學徒を失望させた事實は去る十月十九日、第十一回日本學術會議において、務臺教授らの「講和條約調印に際しての聲明」が、九三對五六をもつて否決されたことである。「人類平和のために戰爭を目的とする科學の研究に絕對に從わぬ」と聲明することが、果して科學者の良心にもとる行動なのであろうか。その理由が單に「政治的であるから」というならば、平和への叫びが思想も宗教もそして民族をもこえて全人民の聲となつている今日、それは現實からの逃避であり、卑屈な沈默といわなければならない。

思えば社會科學者が今日ほど愼重にしかも良心的に生きることを要求されている時代はあるまい。だがそのためには彼は眞實への强い愛情と心の純粹さと、そして何よりもたえまない勇氣とを必要とする。新しい年を迎えるにつけ、前途の困難を想いこのように感ずるのはひとり筆者のみではあるまい。（飯田　鼎）

昭和二十六年十二月二十五日印刷　第四十五卷
昭和二十七年一　月　一　日發行　第　一　號

本號　定價　七　拾　圓
送料　四　圓

編集兼發行者　東京都港區芝三田慶大經濟學部內　高　村　象　平
印刷者　東京都港區芝三田豐岡町八　川　口　芳　太　郎
印刷所　東京都港區芝三田豐岡町八　圖書印刷株式會社

載　轉　禁

豫約購讀料一年分　金八四〇圓（送料共）
半ケ年分　金四二〇圓（〃）
豫約購讀料は發行所宛お拂込み下さい。
誌代變更の場合は精算決濟致します。
編集に關する用件、營業に關する用件、販賣申込も發行所へ願います。

發行所　東京都港區芝三田二丁目　慶應義塾大學經濟學部研究室內　慶應義塾經濟學會
日本出版協會員B一一一〇一六